

TOPIC
1

令和6年度国立大学教養教育実施組織会議(5/25)の報告

令和6年5月25日に、第60回国立大学教養教育実施組織会議が開催されました。この教養教育実施組織会議は、昭和39年（1964年）の第1回教養学部長会議の流れを汲み、60年に及んで大学教養教育の発展に貢献してきた歴史ある会議です。今回は岐阜大学が当番校として全体会・各分科会の座長を務めました。以下に、全体会・各分科会の座長からの報告を掲載します。

全体会：生成AIの活用について

全体会では、近年急速に利用が広がっている生成AIについて、高等教育でどのように活用するか、というテーマを名古屋大学よりいただきました。金沢大学からは、生成AI時代の学びに対応した学習内容の提供必要性や、公正な評価のための方策が提示されました。横浜国立大学からは、実際に生成AIを利用したグッドプラクティスのご紹介がありました。山梨大学からは、学内で使える独自の文章生成AIチャットボットなどについてご説明いただきました。

全体として、単に生成AIについての指針を示すのみならず、具体的な利活用の事例を紹介いただいたことで、大いに他大学の参考になったことと思われます。（益子典文）

第1分科会：大人数受講科目におけるPBL実施方策について

第1分科会では、「大人数受講科目におけるPBL実施方策について」について議論しました。まず、富山大学（提案大学）から取組状況の報告と大人数受講科目でのPBL実施のための検討課題の提起がなされました。続いて、群馬大学、島根大学、大阪大学から、それぞれの大学における取組事例について報告がありました。

ディスカッションでは、PBL型授業の捉え方の違いや大人数が受講する科目におけるPBL型授業の必要性、大人数のPBLを実施する上でのICTの活用などについて話題になりました。（椎名貴彦）

第2分科会：教養教育が大学教育でリードすべきアクションプラン

静岡大学から、教養教育において学生のリーダーシップ力の向上や主体的な学びにつなげるための取組状況の報告と検討課題の提起がありました。弘前大学からは「地域学ゼミナール」、東京農工大学からは「グローバル展開科目」、東京工業大学からは「くさび型教育」と1年次全学必修の「東工大立志プロジェクト」などの取組事例が紹介され、活発に質疑応答や議論が行われました。これらの発表や議論を通じて、教養教育から専門教育、さらに博士課程までを見据えた段階的な学びの仕組みを、大学全体で構築する必要性が確認されました。また、本学においては、カリキュラムマップの構築により、これからの時代に必要な調査力や探究力、課題設定力など知的探求に必要な能力とファシリテーションに代表される「支援型リーダーシップ」という能力の向上を図る機会を創出し、経験させることで、地球規模で各国をつないで活躍できる人材を輩出する必要があることを認識しました。（清島絵利子）

第3分科会：教養教育（共通教育）におけるコアカリキュラムのあり方について

すべての学生に一定の学修成果を求めるコアカリキュラムを、教養教育の中にどのように位置づければ良いか、という神戸大学から提案されたテーマのもと、山梨大学、宇都宮大学、東北大学の三大学から事例を報告いただきました。近年、各大学で開講が進んでいる数理・データサイエンス・AI科目の他、高年次における教養科目の必要性、全学DPと合致する一連の科目群の設定など、それぞれに特色ある取り組みが紹介され、今後の教養教育の方向性も含め、大いに議論が盛り上がりしました。（長谷川暁人）

第4分科会：大学体育・スポーツの意義について

各大学の教育実践を通して、大学体育の三大意義（健康・安全・体力の保持増進、人間関係の形成、スポーツの普及・振興）や多様な価値を確認することができました。今後求められるSDGs教育、インクルーシブ教育、テラーメイドな教育の実践についても理解を深め、大学体育の質保証のために、学習教材の工夫、実践記録のデータ化など学習効果を上げるための工夫と評価の可視化について重要性を再確認することができました。しかし、教員削減、施設・設備の老朽化への対応など、各大学が共通して抱える問題が山積していることの報告がありました。（熊谷佳代）



吉田和弘学長による開会挨拶



分科会の様子

TOPIC 2

第15回教養講演会（NHK大学セミナー）（6/24）の報告

演題：持続可能な社会を目指すには

ー将来のエネルギー供給体制、世界規模の環境問題・気候変動について考えるー

講師：堅達京子氏（NHKエンタープライズエグゼクティブ・プロデューサー）

令和6年6月24日に開催された第15回教養講演会は、NHK大学セミナーとの共催という形で、NHKエンタープライズエグゼクティブ・プロデューサーの堅達京子氏に「持続可能な社会を目指すにはー将来のエネルギー供給体制、世界規模の環境問題・気候変動について考えるー」というテーマでご講演いただきました。

堅達氏はNHK在籍時より長年環境問題に取り組み、気候変動問題を中心に多くの番組を制作されてきた方です。今回は、NHK・民放6局連動の環境特番「1.5℃の約束 今すぐ動こう、気温上昇を止めるために」を踏まえ、地球の温暖化が驚異的な速さで進んでいること、また今後10年に行なう私たちの選択や対策が、今後数千年の地球環境や人類の幸福に影響するということを、映像や図なども交え、わかりやすくご解説いただきました。講演後には学生からも、「今後の我々自身が行動していかなければならないことがよく分かった」といった感想が寄せられ、有意義な講演会となりました。（長谷川暁人）

NHK 大学セミナー 第15回教養講演会

持続可能な社会を目指すには

ー将来のエネルギー供給体制、世界規模の環境問題・気候変動について考えるー

令和6年
6月24日
10時30分～12時00分

会場
岐阜大学（岐阜南校舎前門1-1）
全学共通教育棟105番教室
オンライン会議ツール Zoom で同時配信

講師
ばんだつようこ
堅達 京子
NHK エンタープライズエグゼクティブ・プロデューサー

対象
●岐阜大学と名古屋大学の学生
●東海国立大学機構の教職員
●一般の方

お申し込み
お申し込みは、お申し込みフォームから、お申し込みください。
お申し込みフォーム: <https://www.nhk.or.jp/seminar/2024/06/24/>
お申し込み期限: 6月20日(木) 18時00分まで
お申し込み料: 無料
お申し込み方法: 申し込みフォームから、お申し込みください。
お申し込みフォーム: <https://www.nhk.or.jp/seminar/2024/06/24/>
お申し込み期限: 6月20日(木) 18時00分まで
お申し込み料: 無料
お申し込み方法: 申し込みフォームから、お申し込みください。

オンライン参加
お申し込みフォームから、お申し込みください。
お申し込みフォーム: <https://www.nhk.or.jp/seminar/2024/06/24/>
お申し込み期限: 6月20日(木) 18時00分まで
お申し込み料: 無料
お申し込み方法: 申し込みフォームから、お申し込みください。

岐阜大学全学共通教育棟 yamada.hidaki@fth.ac.jp ☎058-293-3007

主催: NHKエンタープライズ
協賛: 岐阜大学 教員会連合、学生連合
後援: 岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜県教育センター

教養講演会ポスター



当日の講演の様子



会場の様子



講師の堅達京子氏

TOPIC
3

多目的ホールネーミングライツ(IBIDEN Innovation Hub)事業について

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学とイビデン株式会社（本社：岐阜県大垣市 代表取締役社長：青木 武志、以下「イビデン社」）は、大学施設のネーミングライツ契約（令和6年4月1日～令和11年3月31日）を締結し、多目的ホールの愛称を「IBIDEN Innovation Hub」と命名しました。

同室は棟の一番端にある学内最大の講義室で、固定式の机と椅子、大型スクリーン、最新のプロジェクターと音響設備が完備されており、教壇に立つと小ホールともいえる壮観さを感じます。また、そうした特有性以外にも、講義や各種イベントなどで何度も利用するので学生にとって親しみのある講義室となっています。

本学の学生が、この「IBIDEN Innovation Hub」に様々なアイデアや夢を持ち寄り、この施設を最大限に活用してイノベーションを創出し、世界へと羽ばたいてもらうためのHubとなることを願い愛称はネーミングされました。半導体メーカーや自動車メーカーなど世界トップクラス企業を支えるイビデン社からのご厚意により生まれ変わったこの多目的ホール、愛称「IBIDEN Innovation Hub」が、広く学生・教職員、更には学外関係者に親しまれ定着するよう努めてまいります。(全学連携教育課長)



IBIDEN Innovation Hub外観



入り口ドアおよび電子看板



IBIDEN Innovation Hub内部の様子

TOPIC
4

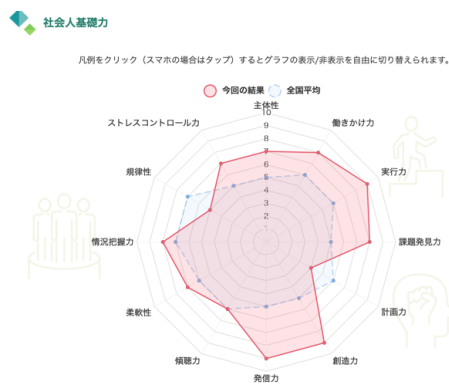
適性検査マイナビMATCH plusとcrescendoの連携について

岐阜大学では、株式会社マイナビが実施している職業適性診断「キャリアデザインツール MATCH plus」と連携し、希望する学生に任意でこの診断を受けてもらっています。MATCH plusは、自身のパーソナリティの特徴や社会人基礎力、向いている業界や職種などを客観的なデータとして知ることができるツールです。学生のみなさんにとっては、就職活動を始める年だけでなく、入学時に受検しておくことで、自身の社会人基礎力の成長や変化を知ることができる利点があります。この診断結果は過去4回分を履歴として残しておくことができるため、例えば毎年一回受検することで、自分自身の成長や変化を知ることが可能になります。

また、集まったデータは教学IR データに蓄積し、学生の経年変化や他大学との比較などのデータを基に分析を行い、教育の質の改善に活用していきます。教育推進・学生支援機構では、今後、教学DX推進センターで管理している学生ステータスシステムcrescendoの学生個人のページにこの適性検査の結果を掲載し、学生が自身のキャリアを考えていくための材料としていただくことを企図しています。岐阜大学生の皆さん、ぜひこのツールを利用して、就職活動を有利に進めていってください！（長谷川暁人）



受験案内チラシ



社会人基礎力の一例



パーソナリティ診断結果の一例

TOPIC 5

東海国立大学機構教育グッドプラクティス機構長特別表彰式の報告

このたび、教育推進・学生支援機構清島絵利子准教授担当の社会人リテラシー科目 日本語表現Ⅰ（初級）が、東海国立大学機構グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞しました。

この制度は、当機構に所属する教員の教育のモチベーションを高め、授業の質の向上を目指すことから創設され、初めての表彰となる今回、他の模範となる特に優れた効果又は成果があったと認められた授業として、令和5年度岐阜大学全学共通教育開講の授業等から表彰されることとなりました。

表彰式は、令和6年7月24日（水）に名古屋大学内で行われ、松尾機構長から清島准教授に表彰状が手渡されました。

藤巻本部長から、受講生約1,300人、必修科目、オンデマンド型の講義で、記述式課題の成績評価に学生同士の相互評価法を取り入れた画期的な採点法について賞賛をいただきました。

松尾機構長より「学ぶことの大切さや面白さを教えてくれる教員に出会うことは、学生にとって一生の宝物になる。今後もさらに研鑽を積み、より良い人材の輩出に繋げてほしい」と謝辞が述べられました。

今回受賞された清島先生からは、「今回、この荣誉ある賞を受賞できましたのは、私ひとりの力ではなく、これまでに指導して下さった前副学長山田敏弘先生をはじめ、レポート採点法のシステムを活用させていただいた工学部教授横田康成先生と、日々支えてくださった皆様のお陰と実感しております。今後もより一層教養教育の発展に邁進して参ります」と抱負が語られました。（益子典文）



授賞式の様子



記念撮影

基盤教育センター（令和6年11月現在）

センター長	益子 典文	専門分野：教育工学
副センター長	椎名 貴彦	専門分野：基礎獣医学
副センター長	清島 絵利子	専門分野：日本語学
副センター長	長谷川 暁人	専門分野：フランス哲学

岐阜大学 教育推進・学生支援機構 基盤教育センター

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL 058-293-3007
<https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/>

益子 典文 長谷川 暁人 責任編集